

DMATがやってきた！

(2ページVer.)

～DMATを受け入れる災害拠点病院のためのリーフレット～

ある晴れた日・・・病院でいつものように仕事をしていると、突然地震がやってきた。とても大きな地震だった。みんな混乱しながらも、家族の安否確認を済ませ、病棟や外来棟に状況確認に走った。病棟も混乱していたが、たくさんのけが人が押し寄せてきた救急部はかつて誰も経験したことがない位に混乱していた。優先電話回線は、役場やマスコミからの電話で鳴りっぱなしだった。『いつになったら落ち着くのかな？誰か助けてよお～』心の中で叫びながら、対応に追われ続けていた。すると、・・・彼らがやってきた！

(このお話はフィクションです)

※DMATの基本知識については、裏面のDMAT Q&A (基本編) をお読み下さい※

Point 1 : DMATの参集拠点は、災害拠点病院

DMATは、被災地内において、けが人が多数搬送されてくると予想される災害拠点病院の支援を中心として活動を行います。災害拠点病院は、DMATの参集拠点および現地本部として、協力をお願いされることがあります。

Point 2 : DMATは被災地病院を支援するためにやって来る

DMATは、被災者の命を救うために活動しています。突然の被害に見舞われ、たくさんのけが人が押し寄せる病院の支援はDMATの重要な役割です。DMATと友好的かつ強固な協力体制を築き、共に被災地の医療を担ってください。

Point 3 : DMATにはリーダーがいる

DMATには、複数のDMATを指揮、統制、調整、支援するリーダー(統括DMAT)がいます。病院側にとっての窓口は、このリーダー(統括DMAT)です。病院災害対策マニュアルに沿った災害医療活動を展開してください。病院支援に入ったDMATは、支援先病院の意向に沿って活動します。

Point 4 : DMATに気遣いや遠慮は無用

DMATは基本的に自己完結型で活動を行います。よって、食事などの気遣いは無用です。また、DMATは災害医療活動のトレーニングを受けていますので、遠慮なく“HELP!”して下さい。とはいえ、参集場所や現地本部となった病院は、できる限り、DMATに以下※の提供をお願いします。

※会議室など大きめの部屋(LANジャックおよびTVジャック)、ホワイトボード

※仮眠のための場所(本部設置場所およびロビーなど邪魔にならない場所)

Point 5 : DMATは支援のための情報を求めている

DMATに対し、病院の被害状況や機能低下の程度、来院患者数、地域の医療機関などの情報提供をお願いします。DMATと情報共有を進めることで、よりスムーズな連携活動が可能となり、結果的に、被災者支援につながります。

DMAT (ディーマット) Q&A (基本編)

①DMATって、なに？

DMATは、Disaster Medical Assistant Teamの略称で、災害急性期（災害発生後約72時間）に活動できる機動性を持ち、かつ、トレーニングを受けた医療チームです。

②DMATのメンバーって、だれ？

病院ごとに医師・看護師・業務調整員（事務職員・コメディカル等）を編成してチームを作り活動します。メンバーは厚生労働省の研修を受け、トレーニングを積んでいます。所属する病院は、研修を修了したDMAT隊員を厚生労働省および所轄都道府県に登録しています。

③DMATって、何するの？

大地震や列車事故などの大規模災害時に被災地に駆けつけ、一人でも多くの命を助けるために活動します。

④DMATって、どこに来るの？

被災地内の災害拠点病院を中心に、地域の病院や救助救出現場および重傷者を被災地外に搬送する場所で活動します。

⑤DMATって、いつ帰るの？

DMAT活動は、基本的に災害急性期の救命活動であるため、概ね48時間です。災害の規模により異なりますが、その後は医療救護班等に引き継がれます。

DMAT (ディーマット) Q&A (本音編)

⑥DMATって、どうしてあんな格好なの？

DMATの活動場所は病院内や安全な場所とは限りません。野外活動も想定した装備をしています。

⑦DMATって、どうしてあんなにたくさん来るの？


DMATは基本的に被災した都道府県の要請を受けて派遣されます。災害発生直後の被害規模・医療ニーズの全貌把握は大変難しく、被災地で必要とされるDMATの数を予め想定する事は困難です。そのため、大規模災害では、たくさんのDMATが被災地に集結する傾向にあります。集まったDMATは、統括DMATにより統率されますが、被害の全貌が明らかとなり、支援の充足が確認されれば、順次撤収を開始することになっています。


⑧DMATに「医療ニーズが少なくなったので、お引取り願いたい」って言うっていいの？

災害拠点病院は、被災地にあっては、主に重症者を受け入れ、必要に応じて被災地外病院へ搬送する役割を担っています。（厚生労働省H8通達）DMATは、災害拠点病院の役割を熟知した上で被災地医療支援活動を行います。支援病院の医療ニーズが少なくなっても、被災地全体の被害の把握が遅れていたり、近隣病院や救助救出現場で活動が続いている場合には、本部機能を継続しなければなりません。DMATは被災都道府県や厚生労働省、DMAT事務局と調整しながら活動しておりますので、完全撤収までDMAT活動にご理解とご協力をお願いいたします。

このリーフレットは、地震災害に遭遇した災害拠点病院およびDMAT隊員へのヒアリングを基に作成しました。災害拠点病院が大規模地震災害時に、DMATを受け入れる際に役立つことを目的としています。ここに、リーフレット作成にご協力頂きました方々に謝意を表します。

2009年3月1日 2ページVer.第1刷発行

発行所 独立行政法人 防災科学技術研究所 

地震防災フロンティア研究センター 

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター ひと未来館4階

Tel.078-262-5525 Fax.078-262-5526

URL: <http://www.edm.bosai.go.jp>

作成担当 池内淳子(ikeuchi@edm.bosai.go.jp)